

模試の徹底活用法

模試の受け方

◆ 積極的にチャレンジする ◆

本番の入試で自分の実力どおりの得点を挙げるのは容易ではありません。試験の点数は実力どおりに出るものではないのです。

緊張して固まってしまう人。時間に追われると、あわてて問題に手がつかなくなる人。不注意なミスで点数をぼろぼろと失う人。時間配分が下手で、本当は解ける問題に手をつけずに終わってしまう人……。みなさんも、ひとつぐらいいは心当たりがあるのではないのでしょうか。こうしたいろいろなことは、実際に試験を受けてみないとなかなかわかりません。やってみると思ったほどうまくいかないものなのです。実力どおりの点数を取るにも、それなりの準備は必要だということ

とですね。

そういう練習ができるのは、模試だけです。だから、なるべく積極的に受けることを心がけて、経験値を高めておくようにしてください。ときどき偏差値や順位で評価されることをいやがって、模試を受けたがらない人を見かけますが、そういう態度はまちがっています。模試はいい成績をとって安心するためよりも、むしろ自分に何ができないか、自分はどんな失敗をするのかを知るためのチャンスだと考えてください。失敗から学んで、それを次の機会に活かしていくことによって、「本番の入試で自分の実力どおりの得点を挙げる力」がついてくるのです。

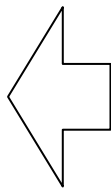
◆ 課題をもって模試に臨む ◆

いくら積極的にといても、時間が無限にあるわけではなく、何十回も模試を受けることは不可能です。「本番の入試で自分の実力どおりの得点を挙げる力」を磨いていくには、貴重なチャンスを活かす「受け方」が大切になってきます。次に説明する「模試から情報を引き出す」とも深くかかわってきますが、一回一回の模試を、自分が充分できていないところ＝弱点を意識して受けるようにしてください。弱点は科目

の中身とは限りません。むしろそれ以外の試験への対処法の中に、模試で試したり習得したりすることが必要なテクニックやスタイルがたくさんあります。よくある課題を次に挙げてみます。いっぺんにすべてをやってみるのは難しいでしょうが、ひとつかふたつ、自分で気になっていることや人からよく指摘されることを選び、その改善を意識して模試を受けてみましょう。

—— 模試で取り組む典型的な課題 ——

- ① 字をきれいに書く。
- ② 時間配分を最初に考えるようにする。
- ③ 問題をやる順番を考える。
- ④ 時間があったら必ず見直しをする。
- ⑤ 自分がよくやってしまうミスを防ぐ。



①～④の課題は、自分が意識を持っていれば実行することができますが、⑤の「ミスを防ぐ」はただそうしようと思ったり気合を入れたりするだけではなかなか実現できません。あらかじめ「このやり方でこのミスを減らそう」と具体的でシンプルな対策を立てておくことが必要です。そしてそのためには、なぜ自分にそういうミスが起こりがちなのか、原因を突き止めなくてはなりません。

このように模試は、普段の勉強とのかかわりをしっかりと考えることで威力が2倍にも3倍にもなるものなのです。漫然と受けるだけではなく、「準備した結果を模試で試す→模試の結果を勉強に活かす」というサイクルを意識して活用しましょう。

模試から情報を引き出す

模試が終わった後しばらくすると、採点済みの解答用紙と成績帳票、解説資料などが戻ってきます。みなさんはどこを見ますか？ 順位や偏差値、志望校の合格可能性判定は誰でも確認すると思います。でもそれで一喜一憂しておしまいになっているとしたら、とても模試を有効に活用しているとは言えません。

◆ 返却資料で傾向をつかむ ◆

気になる合格可能性や偏差値を最初に見るのは、別におかしいことではありません。入試は点数という客観的な数値で人と成果を競い合うものですから、3科、5科、科目別の自分のポジションを把握するのはとても大切です。

わかっているつもりでも、人間は自分のこととなると意外に見えにくいものです。感情の入らない資料は、軽く考えていた自分の弱点などを目の前に突きつけてくれる効果があります。これから何をすべきか、自分の努力の優先順位を大まかに決めるのには、そうした成績帳票類が役に立つのです。

ただし、ひとつだけ注意してください。合格可能性の判定は、あきらめさせるためについているものではありません。また、慢心や油断をさせるためについているのでもありません。

あくまで、今のポジションを確かめ、これまでの努力の方向性が正しかったかどうかを知るためのひとつの要素なのです。

A判定や「有望」とあったときには、「今の調子で勉強していれば有望」と読みましょう。逆に「再考」の場合は、「このままだと再考せざるを得なくなるから、もっと勉強しよう。やり方を考えよう」と読んでください。

3年生の今後の模試での「再考圏」は場合によって重く受け止める必要もありますが、志望変更などを考えるときには、必ず塾の先生と話し合ってみてください。一度の模試の結果にはブレもあります。長く一緒に勉強してきた先生はみなさんの本当の力をよくわかっていますから、合否判定とは別な見方をしているかもしれません。

◆ 返却答案は宝の山 合格への道を教えてくれる ◆

気になる成績帳票類よりもっと重要な情報源が模試の返却資料の中にあります。それは採点された解答用紙です。ここには、試験でやったこと、できたこと、できなかったことのすべてが記録されているのです。

スポーツで考えてみてください。自分がひとつの試合でやったプレーのすべてをビデオにとって見るような機会があるでしょうか。トップレベルのアスリートならともかく、普通

はそんなことは誰もしてくれません。もしそんなものがあれば、自分のプレーの長所も弱点も全部わかると思うでしょう。しかし、模試では答案そのものがみなさんのやったすべてなのです。それを細かくチェックすることで、自分の学力と「本番の入試で自分の実力どおりの得点を挙げる力」に関する多くのデータを引き出すことができます。これを活かさない手はありません。

返却答案のチェックポイント

① 科目別にできなかったところをつぶしていく	大切なのはできたところではなくできなかったところ。そこを一つ一つ確認し、知識に加えていくことで、弱点分野が埋まっていきます。「復習で100点にする」を心がけてください。ここでは解答・解説の資料が役に立ちます。
② 試験時間の使い方を確認する	各大問の完了度と正答率などを見ると、自分の時間の使い方が適切だったかどうかチェックできます。長文を読むのに時間がかかりすぎているとしたら、その対策なども勉強に取り入れる必要があります。
③ ミスが発生するパターンを探し、原因を特定する	ミスをもったくない人はいませんが、多い人と少ない人はいます。とくに多くのミスをしてしまう人の場合、自分がどんなところで何が原因でミスをするのかを理解しない限り、ぜったいに減らすことはできないと考えてください。模試の答案は、それを探索する最高の材料です。妥協なく原因を追求しましょう。

ミスの原因分析の例…多くの人が悩む計算ミスの場合を考えてみます。

<p>・計算ミスとは？</p>	<p>第一に「計算ミス」というのは結果であって原因ではありません。なぜそれが起きたかを追跡します。</p>
<p>・転記ミス</p>	<p>プラスマイナスの符号の転記（とくに移項の際）、数字の誤記が考えられます。符号の場合は、計算処理を落ち着いてできていない可能性が高く、数字の場合は自分が読み間違えるようないい加減な字や小さすぎる字などを書いていることが多いので、字の書き方そのものを直す必要があります。</p>
<p>・暗算の失敗</p>	<p>一桁の足し算などを間違える生徒もいますが、多くは急ぎ過ぎが原因です。もうひとつ考えられるのは、暗算のやりすぎです。ミスが出るような場合には、筆算の率を高める必要があります。</p>
<p>・特定箇所でのミス</p>	<p>分数・ルートの計算・比の計算・単位あわせなど、決まった箇所ミスが起きるのは、実際にはミスではなく、学力不足です。その項目をきちんと理解して練習を積むことによってつまらない失敗をしないようになります。</p>
<p>・何も書いていないので原因不明</p>	<p>こういう人は、何一つ足跡を残さずに問題を解こうとする姿勢そのものにまちがいがあるといえます。解いている途中で、自分も迷子になってしまっているのでしょうか。すべてを書く必要はありませんが、自分が解答に接近していく道筋の要所要所を記述しておくことは、安全確実に解答を出すうえでも、途中で論理を見失ったときすばやく後戻りするためにも、また、時間があるとき見直しをするためにも絶対に必要です。</p>

模試の答えをきちんと見れば、実はこんなことまでわかるのです。その価値の高さがおわかりいただけただけでしょうか。これを知ったみなさんはもう模試の達人。縦横無尽に使いこなして、志望校への道を切り開いてください。

株式会社 栄光発行「栄光コンパス 中学部 No.60 2009年6月号」より